



ハンディキャップを乗りこえて

「現在の家具製作の仕事に就いて12年目になりますが、初めはやはり聴覚障害というハンディキャップのため、技能を学ぶのにも苦労しました。今回良い成績を収められたのも職場の先輩など周囲の人びとの協力があったからです」

受賞の喜びを語るのは、このほど、千葉市で開催された第18回全国身体障害者技能競技大会（アビリンピック）の家具部門で、見事1位入賞（金メダル）を果した和歌山市の鈴木真通さん（41）です。鈴木さんは、システムキッチンやクロゼットといった家具の注文製作を専門とする技能士です。

3歳の頃の病気による発熱が原因で重度の聴覚障害を持つ鈴木さんは、小学校3年生までろう学校で言語を学んだため、言葉を話すことはできます。しかし相手が話していることを知るには、その口の動きから読みとるか、手話に頼らなければなりません。

木工作業では、材料を組み立てる際に、様々な音を聞くことも大切だ

そうですが、鈴木さんの場合、目で見て、手で触ってといった他の感覚を充分に生かした努力が必要でした。

今回の技能競技大会出場にあたっても、あらかじめ課題として与えられた家具を制限時間内に手加工で仕上げなければならなかったので、毎日、平常の仕事を終えてから黙々と練習に励んだとのこと。

毎日が勉強ですと、製作中の家具の仕上げに入念にカンナをかける鈴木さん。

「大会に参加して、一番良かったことは、自分よりもまだ重い障害を持ちながら、一生懸命に努力している人がいるのを知ったこと。障害を持つ人も殻にとじこもることなく、積極的に社会活動に参加してほしい。そして、そうできるように社会全体が、一層障害者に対する理解を深めてもらいたいです」と静かに語ってくれました。



休憩時間に同僚とくつろぐ鈴木さん（中央）。

12月9日は「障害者の日」です。

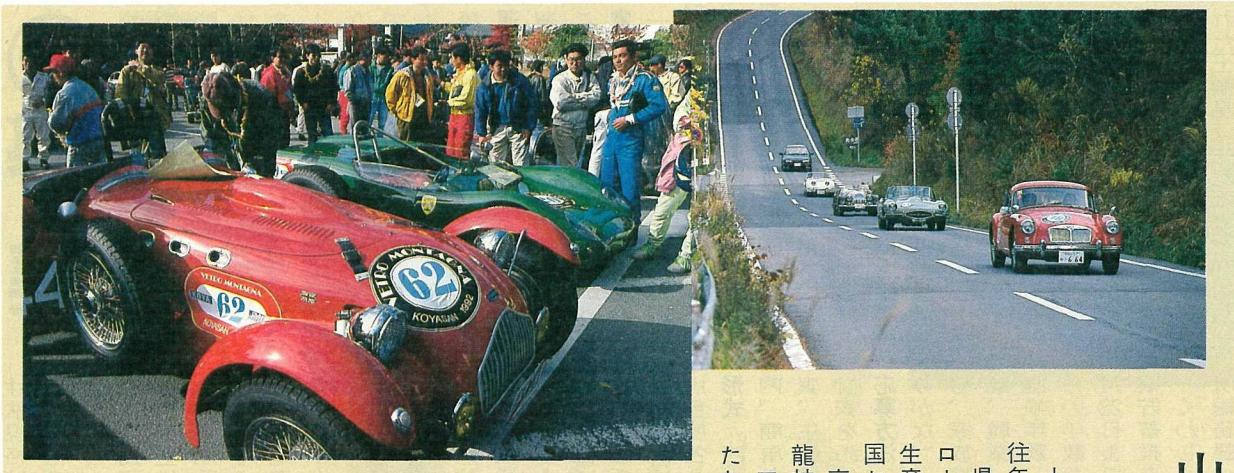
1983年（昭和58年）から始まった「国連・障害者の10年」が今月末で終了しようとしています。

この間、県では県民のみなさんをはじめ、市町村や関係団体などの協力により、さまざまな障害者施策に取り組み、大きな成果をあげてきました。

しかし、社会情勢が刻々と変化し、高齢化や核家族化の進行、生活様式の変化に伴い障害を持つ人びとのニーズも次第に多様化しています。

「国連・障害者の10年」最終年をもって、すべてが終るのではなく、その成果を一つのステップとして、障害を持つ人も持たない人も、同じ地域の一員として生活できる明るい社会の実現に向け、さらに努力を続けなければなりません。





観光客待望の休憩所

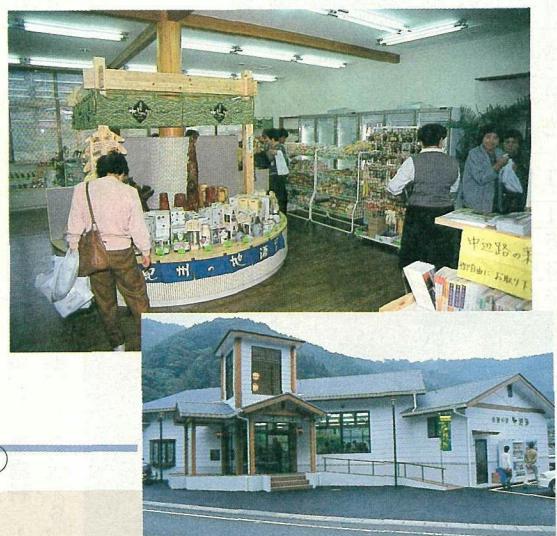
今、静かなブームとなっている熊野古道。その観光、散策の拠点として待望されていた休憩所がこのほど完成しました。

中辺路町森林組合が建設したもので、中辺路町川合、国道311号沿いの静かな山あいの中、なかへち材を使った木造の建物となっています。

休憩所には、外の風景を楽しめる落ち着いた雰囲気の喫茶コーナーと町内の農産物加工品、木工品などの販売コーナーがあります。

古道散策の魅力を語り合うのにもちょうどいいですね。

(中辺路町)



県写真コンテストの入賞者が決定しました。(知事賞1点、特選1点、準特選2点、特別賞1点、入選15点)今年のテーマは「わたしのふるさとわかやま～夏～」。

多数のご応募ありがとうございました。なお、平成5年2月～3月にかけて県内各地での展示を予定しています。

第九回県写真 コンテスト 入賞者決定



知事賞「北山川を下る」辻和絵さん(新宮市)

が
あ
と
か
き

とうとう十二月になってしまった。皆さんにとってどんな一年だったでしょうか。
私などはいろいろやり残したことや、しくじったことで反省の多い年でした。いつものことですが、来年こそはこの頃です。
毎月この県民の友を各家庭へ届けて頂いた皆さんは、年末の大変忙しい時と重なってしまいます。
どうかよろしくお願いします。

健康で、明るい新年をお祈りします。

十一月八日、秋深まる高野龍神スカイラインで、往年の名車約八十台がパレードを行いました。県観光連盟と高野町が共催したもので、都市間ロードレースに参加した車や、一九七三年までに生産された外国のスポーツカーなど珍しい車が全国から集合。

高野町金剛峯寺前駐車場で車両展示の後、高野龍神スカイラインで龍神村までを往復しました。三回目に初めての晴天。カーマニアや子供たちの注目を集めました。

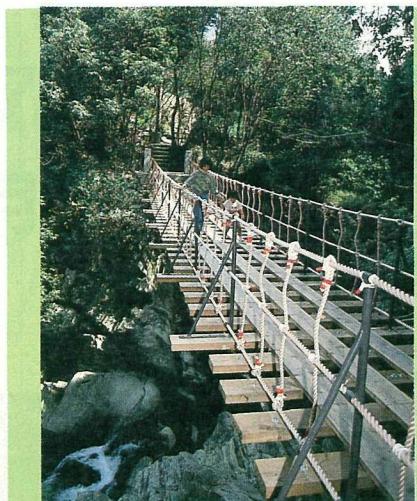
(高野町)

さらなる文化の向上を 和歌山県文化表彰



文化の向上発展に特にすぐれた功績のあった方をたたえる文化表彰も今年で29回目を数えました。本年度は次の方々が選ばれ、11月5日、表彰式が行われました。

- 文化賞 故中上健次氏(小説)
- 文化功労賞 小池洋一氏(地理学)
- 文化奨励賞 小山豊氏(文化財研究)
- 文化奨励賞 道浦母都子氏(短歌)
- 坂本冬美氏(歌手)
- 田辺美術協会(美術)



伝説の滝を 観光名所に

桃山町神田地区の滝の平にある名勝「雄滝」。

昔、日照りの続く夏に、高野の僧が雨乞いの秘文を滝壺に向って唱え、雨を降らせたという伝説が残るこの滝の周辺に散策道ができ、家族連れなどでぎわっています。

散策道には、雄滝の真正など二カ所に吊り橋があり、スリルと渓谷美を楽しめます。また、桃の木の型をした展望台やお姫様と桃をあしらったすべり台などの遊具を設置した広場もあり、子ども達の人気も日々のよう

です。町では今後も、もみじや桜などの木を植え、景観を一層良くするなど整備を進めるとのことです。

(桃山町)

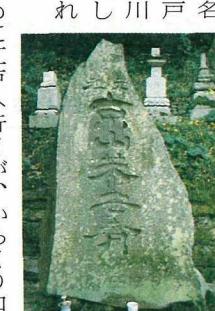
NEWS



浪花節の元祖

シリーズ 79

京山 恭安斎 本名
板原孫太郎、江戸時代末期、紀州徳川家の御殿医の子として和歌山市で生まれ



京山恭安斎、本名板原孫太郎は、江戸時代末期、紀州徳川家の御殿医の子として和歌山市で生まれて京山へ出家するが、ここでも身を入れて経を習わず京都へ行き、同郷の祭文読み、都三光の弟子となつた。

医業の勉強のために江戸へ行くが、からくり口調や踊りなど遊芸に走り、和歌山へ帰つてからも態度を変えなかつたので親に勘当された。その後、高野山へ出家するが、ここでも身を入れて経を習わず京都へ行き、同郷の祭文読み、都三光の弟子となつた。

京山恭安斎は、それまでの錫丈やホラ貝だけの祭文に三味線を加えた。一口に三味線を加えるといつても、今までとまったく違う音色をどのように生かしていくかを工夫し、長うたや淨るりの要素もとり入れるなど、新しい曲づくりにはかなりの月日を費した。

こうしてできたものは、大衆に親しまれた古典文学を読みあげるなど語りものとしての形式を整え、そのおもしろさから大人気となり、当時一世を風靡した。これが浪花節(浪曲)の元祖といわれる浮連節である。

明治二十三年、旅先の尾道で没。五十数歳であった。

紀三井寺(和歌山市)に門人たちの建てた顕彰碑が残っている。